

平成26年度 神奈川県母子保健指導者研修会

こどもの事故は予防できる

開催月日	平成 26 年 10 月 27 日(月) 14:00~16:00		
会 場	横浜情報文化センター 情文ホール		
テ ー マ	こどもの事故は予防できる		
講 師	出口小児科医院 (長崎県大村市)	出口 貴美子 院長	
座長・講師	日本セーフティープロモーション学会理事	稲坂 恵 理学療法士	

平成 26 年度母子保健指導者研修会は、「事故予防」をテーマに開催し、保育士、保健師、看護師、等 104 人の参加がありました。子どもの死亡原因のトップである「事故」を予防するために、官民が連携した仕組みづくりや地域の取り組みについて講師よりお話がありました。参加者からも事故予防の取り組みについて発言があり、みなさまの熱い想いが伝わる研修会でした。

<講演の概要>

出口小児科医院 出口 貴美子 院長

1 子どもを事故で死なせない、後遺症を残さない環境づくり

人間の脳は生後急速に発達していく。大事に育むことが大切である。ハイハイや一人歩き等の運動発達に遅れて、言語理解や危険予知能力などの高次脳機能は3歳以降に急激に伸びていくという、運動能力と理解力・認知能力の発達のアンバランスが、3歳未満に事故が多発する原因と考えられる。特に重度な頭部外傷は、高次脳機能障害を引きお越し、発達の妨げ、後遺症を残す。

2 事故を予防するには

3歳未満の子ども達に怒ることや「見守り」は役に立たない。事故は一瞬にして起きる。子ども達が転倒することは止められないが、外傷にならない柔らかい床にする、家具等の角を取る等で、予防は可能である。まず「事故は予防するもの」という意識改革が大事。

今まで事故は治療と共に終了したので、事故予防対策に事例が活かされず、対策がとれなかった。事故情報が集められ、原因が分析され、その情報をメーカーや自治体にフィードバックされるところで、対策を講じることが可能になり、そのシステムが循環することで安全な社会が構築できる。

「子どもを守りすぎることはよくない」という人



右
出口 貴美子 氏

左
稲坂 恵 氏

もいるが、安全はこどもの発育に欠かせず、こどもを健康で活動的にする。事故予防はミス・失敗を許容し、チャレンジ精神を伸ばす方法として必須である。こども達だけでなく、現場の先生・保護者を守る。 Healthy,Active,Safe!!

3 Love & Safety おおむらの活動

地域参加型研究アプローチが特徴。大村市では、子供の事故情報を医師会、幼稚園・保育園などが収集するサーベイランスシステムがある。産業技術総合研究所と提携して、その事故情報を科学的に分析し、結果を地域にフィードバックすることによって、大村市民、保護者、学校関係、警察などそれぞれの立場から課題を見つけ、それぞれの立場で出来る事を考え、実行していく。これら大村市民で共有し、このシステムが地域に根付くように活動をしている。

<具体的な取り組み>

- ・遊具の事故の調査結果 → 階段の色を変えることにより、言葉でなく視覚的に危険を認知させるなどで環境を整える。リーフレットの作成などでわかりやすい情報で提供を行なっている。
 - ・3歳以上では自転車事故が多い → 小学生を対象に講話 アンケート調査 DVD、リーフレット作成 → ブレーキ反応時間の実験 手が大きくなるのでブレーキレバーを調整する必要性を周知
 - ・消費者庁のキャラクターとキャンペーンソング 「アブナイガモ」の創作ダンスを保育園・幼稚園等が映像作成しコンテストの開催
 - ・イベント Love&Safety フェスタの開催
- こどもの事故予防は、楽しく！

日本セーフティープロモーション学会理事

稲坂 恵 理学療法士

Safety Kids いずみに所属して、事故予防の情報発信 親子対象の事故予防講座 事故予防をテーマにしたカレンダーの制作を行っている。

子どもの死亡原因のトップは不慮の事故である。こどもの事故は多く、室内や屋外のいろいろな場面で起きている。事故対策は事故発生を分析し、対処法を教育していく。

<災害からの教え>

川の急増水で助かった子：着衣水泳などの防災教育が活かされた。

東日本大震災で生き延びた事例：自分の命は自分で守る

<アメリカの取り組み紹介>

・事故予防について年中・年長から中学2年まで2歳毎に教材があり、系統立てて教育している。

・ベビーシッター(中学生向け)の教本に日本の大人が知らない事故予防の詳細が記載されている。

<事故予防のポイント>

・「不慮の事故」は、思いがけず発生するのでなく、原因があるので、予防は可能。

・事故に日本独特の文化が関わっている。浴槽の溺れや、物を吸い込んでの喉詰まり等。

・子供を守るだけでなく、自分で守る教育も重要 冒険遊びで防衛能力を向上させる。



事業報告

～平成26年度 神奈川県小児保健協会の活動状況～

理事会

日 時：平成26年5月21日(水) 午後7時～9時

場 所：神奈川県総合医療会館 2階 2A会議室

母子保健指導者研修会

日 時：平成26年10月27日(月) 14:00～16:00

場 所：横浜市情報文化センター 6・7階 情文ホール

内 容：こどもの事故は予防できる

講 師：出口小児科医院院長(長崎県大村市)

出口 貴美子 氏

日本セーフティープロモーション学会理事

稲坂 恵 氏

参加者：104名

地域母子保健指導者研修会

日 時：平成27年2月9日(月) 14:00～16:00

場 所：神奈川県民ホール6階大会議室

内 容：諸外国の子ども虐待対策から子ども虐待の予防と支援を考える

講 師：子どもの虹情報研修センター研修部長

増沢 高 氏

参加者：108名

神奈川県小児保健協会のあり方検討会について

時 期：平成27年2月18日(水) 午後7時～9時

場 所：神奈川県総合医療会館 2階 2B会議室